

**運指表 B**

(普通のフルートでもフレンチモデルでも共通のもの)

オープンだけに用いる。

フレンチモデル (リングキイ) フルートの特別の運指

○印は運指を楽にし音のつながりをよくするための替え指。  
 △印はピッチを高めるための替え指。  
 ×印は非常に早いパッセージだけに用いないとピッチの狂いが目だつ。  
 \*楽器によっては右中指だけの方がよいものもある。

B表の運指は、ここに書いた音の動きにだけ用い、別の形のときにはA表の運指を用いる。(右中指のFisだけは音階的上昇または下降にも用いられるが)

しかし、ピッチを高める運指はこの音の組み合わせでなくてもピアノリッシュモでピッチが下がるのを直すためにも用いることがある。

④リングキイの端だけでキイを動かし、中の穴をふさがない。  
 ⑤キイの穴を大部分ふさぐ。  
 ⑥キイの穴をまぐらふさぐ。  
 ⑦キイの穴を半分くらいふさぐ。  
 ⑧「キイの穴をまぐらふさぐ」とアルテは書いているが、この運指は全部ふさいでも高目だから全部ふさいだ方がよいと思われる。

## — 21 —

## トリル

トリルは装飾音の代表的なもので、主音とその一つ上の音とを交互に早く動かす。早い曲でも原  
 リルの速さは変わらない（おそい曲のときトリルがゆっくりから始まり、順々に早くなって終わる  
 が）指をケイレン的に早く動かそうとすると、どうしても上の音が時間的に長くなってむらになる  
 して動かせる限度でなければならない。練習によってだんだんに早くしてゆく。

トリルはいつも主音から始まるのが普通だが、バッハ以前には、前の音が一音上でない場合はい  
 から始められた。（そのころのトリルは書いていなくても、一音上のアクセントのある短前打音を持  
 考えられる）



D音から初まる。

C音から初まる。

現在は上の音から始まるトリルには、一音上の短前打音を書いて指示するのが普通である。  
 トリル記号の上に♯または♭、♯等がついたときは、トリルの高い方の音が♯または♭、♯等  
 とを示すものである。

トリルの終結には次の二通りがあるが、譜に記入されていない場合も多い。

## 終結音が書かれている例



トリルの数はいくつでも入れられるだけ入れる。

トリルの終結が書かれていない場合は、次の二通りにすることができる。（\*：上の例のように終結  
 のトリルは終結のド音を半音上げない方がよい）



(1)と(2)と比べてみると(2)の方が自然で美しい。(1)でもまちがいはないが、ま  
 幅が半音でないとき(ミ・ファのトリルと、シ・ドのトリル以外)には、たいていトリルの終結は下の  
 げた方がよい場合が多いから、どちらか自然で美しい方を選ぶことがないせつである。

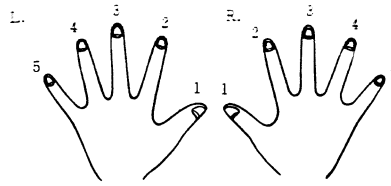
このトリルの終結部は、時代により、また、現在でも演奏される国によって非常に異なっていて  
 あらわれる。フランスはプリランテで、ドイツは装飾が少ない。

次の(1)のように点の長さにはトリルが付かず、主音が引き延ばされることが多いが、(2)の  
 音符の後の音が二つ以上に割れている場合は、最後までトリルを続けて演奏する。



普通の運指でトリルを演奏できないところでは、特別の運指を用いる。次ページはその運指表であ

運指表 C



W このキイをトリルする。

† フリチアルディキイを持つ。〔 〕内はオープン。

Musical notation and fingering chart for the first section. The chart shows fingerings for Left Hand (L. 2-5) and Right Hand (R. 2-5) across 16 measures. Circled notes in the music indicate trills. Circled 'A' and 'B' markers are present. A circled '1.' and '2.' indicate two different fingering options for a specific passage.

↑ 中指でトリルしてもよい。

Musical notation and fingering chart for the second section. The chart shows fingerings for Left Hand (L. 2-5) and Right Hand (R. 2-5) across 16 measures. Circled 'B' markers are present. Annotations include 'アイスレバーをトリルしてもよい。' and 'フリチアルディキイをトリルする。'. A circled 'Dis' is also present. A note on the right says 'この穴をふさいだ方がよい楽器もある。'.

\* 印のものは特殊なトリルキイの付いた楽器以外はほとんど不可能である。

Ⓐ トリルの第1音は正規の運指を使う。 Ⓑ (1) の運指でもアイスレバーでもよい。

①

下の運指と同じ。  
E音からH音までのトリル運指は、オクターブ

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

①

(オーブン)

(トリルのピッチの幅を調整するための運指)

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㉔Dの後打音に続いているときはクローズと同じに左小指の穴をあけてもよい。

|  |        |    |          |
|--|--------|----|----------|
|  | 1. (A) | 2. | 3. 唇をしめる |
|  |        |    |          |
|  |        |    |          |
|  |        |    |          |
|  |        |    |          |

オープンの場合には左小指  
 になるので使えない。  
 ↑ トリルにも使えるがシェークに便利である。

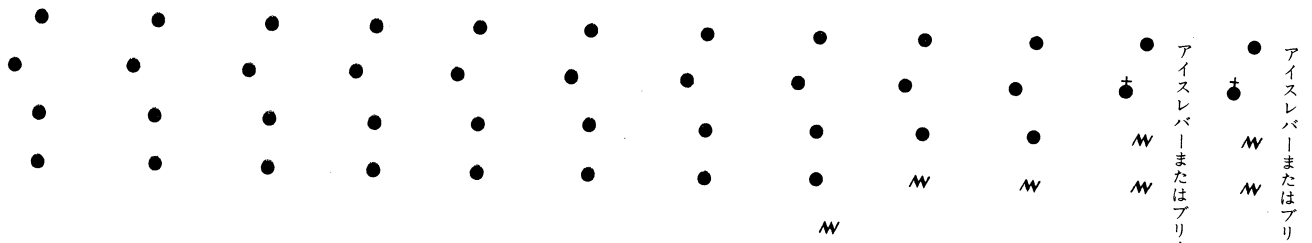
|  |     |     |     |     |     |     |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|  | (A) | (A) | (A) | (A) | (A) | (A) |
|  |     |     |     |     |     |     |
|  |     |     |     |     |     |     |
|  |     |     |     |     |     |     |
|  |     |     |     |     |     |     |

↑ 左中指と右トリルキイは逆運動だから長いトリルには向かないが、  
 シェーク等には便利である。

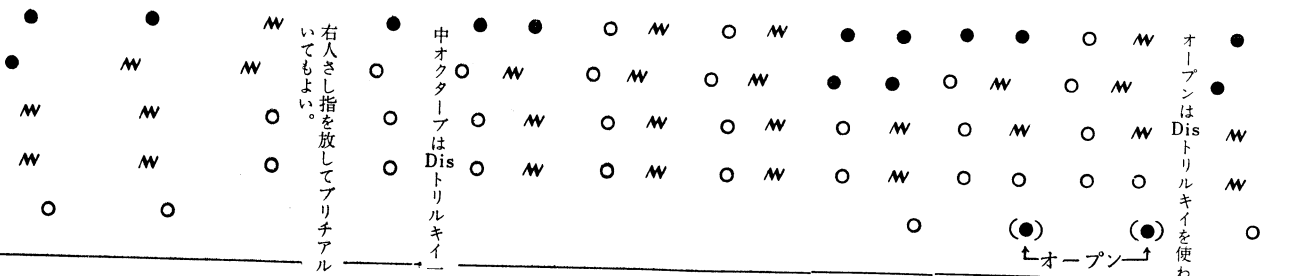
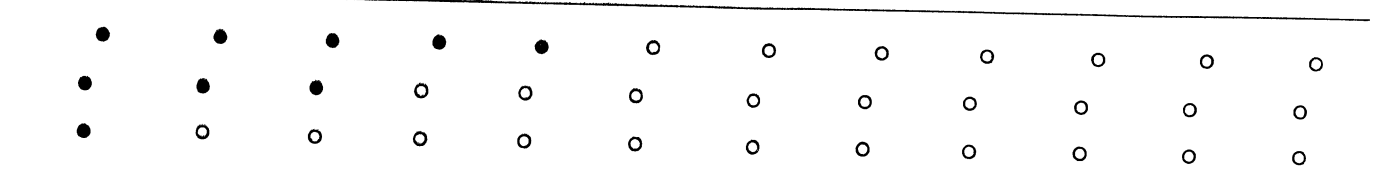
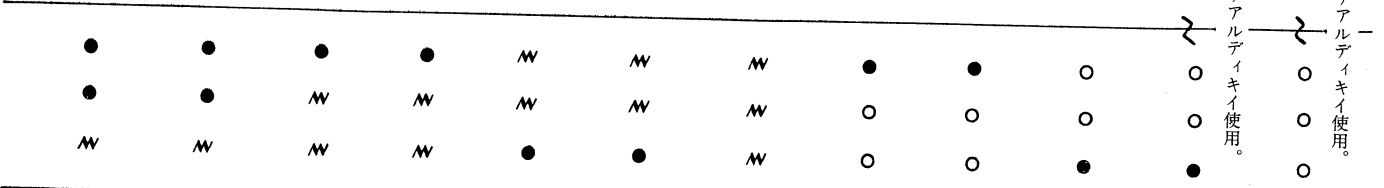
- ピッチの幅を調整するための運指は、長いトリルで調子の狂いが目だつときなどに用いるとよい。
- 何種類もトリル運指がある場合は、各自の楽器にもっとも適したもので、終結音の運指への移りが自然なものを選ぶ。

# 運指表 D (長短三度のトレモロ運指)

トレモロの初めの音は普通の運指を用いる。



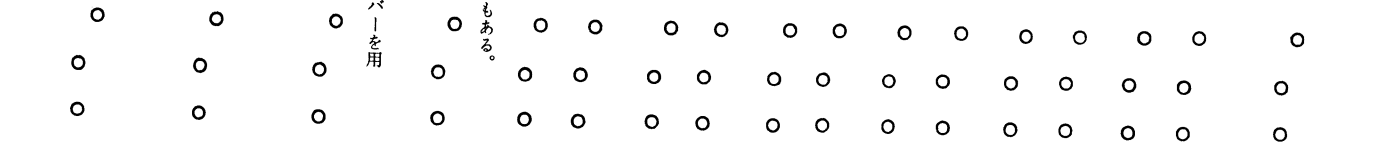
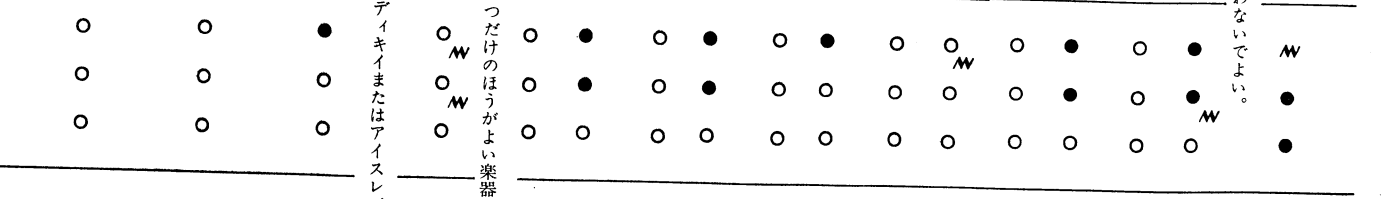
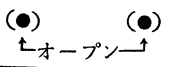
アイズレバーまたはプリチアルデイキイ使用。  
アイズレバーまたはプリチアルデイキイ使用。



右人さし指を放してプリチアルデイキイまたはアイズレバーを用いてもよい。

中オクターブはDisトリルキイ一つだけのほうがよい楽器もある。

オープンなDisトリルキイを使わないでよい。



○ 異名同音は省略した。

○ 四度、及び五度のトレモロは実際にはほとんど用いられないが、この三度の運指ができれば自然にわかってくる。

## P-07

## 運指表

## S (Special Fingering)

## S.I

フォルテでピッチが上わらずるのを防ぐための特殊運指

\*印のものは1巻と2巻ですすでに説明してあるから、特殊運指とは言えないが、実際に音の上わずりを正すのに有効な運指だから重ねてのせることにした。これらの運指は、ピッチが上わらずらないようにするばかりでなしに、ミストーンを防止したり、運指を楽にするのにも役だつことがある。

クローズの場合、高オクターブのA.E.の下降にスラーがかかって、しかもフォルテのときは、ミストーンが鳴ってしまって非常にやりにくいのが、この運指を用いればうまくできる。

次の場合（オープンも同じ）右4指のFisを用いるとミストーンが鳴りやすいが3指なら楽にできる。速いスラーのかかったアルペジオなどに利用すると、ミストーンの心配がない。

## S.II

ピアノッシモでピッチが下がるのをふせぐ特殊運指

普通の運指では、ピアノッシモのときピッチが下がりがちだが、無理に唇に力を入れて上げると音がかすれやすい。そんなときは次の運指を用いると非常に出しやすく、音下がらないですむ。しかし、だいぶ高めの音もあるから、唇でいくぶん下げめに吹き、耳でよく確かめて、正しいピッチを出すようにしなければいけな

い。この運指も速いパッセージの指使いをやさしくするためや、ミストーンをふせぐためにも用いられることがある。

○この運指は足部管がHまで出せるフルートでないと使えない。  
\* B表の運指と同じだがピアニッシモの場合に用いてもよい。

(例)

シリックスより (ドビッシー作曲)

ロマンスより (サンサーンス作曲)

牧神の午后への前奏曲より (ドビッシー作曲)

ミニョン序曲より (トーマ作曲)

第四シンフォニー アダジオより  
(ベートーベン作曲)

S. III 普通の音域外の高い音の運指 (右表)

近代になるにつれて、今までの音域外の高い音が使われるようになったから練習しておく必要があるが、楽器によって出しやすいのと出しにくいのがあり、非常に唇をつかれさすので、長時間練習しないほうがよい。

実際にはDより高い音は使われないから、Dまで出せば、それより上の必要はない。